

1. 1年生(実践コミュニケーション)におけるディベート指導

1) 目標

- ①英語による自己表現を積極的にしようとする姿勢を養う。
- ②与えられた題材について、情報収集したり、ペアディスカッション、グループディスカッション、ペアディベート、グループディベートの中で意見交換をしたりするなかで、自らの考えを論理的に構築する力も養う。

2) 指導方法

(1) Self Introduction (4月第1回目の授業)

クラスの前で1分程度、自分のことについて発表させる。

(2) Pronunciation Practice (4月)

英語の正しい発音の仕方(基礎編)(岩村圭南著・研究社)に沿って、発音の訓練を機械的に行う。また、(リズム・イントネーション編)を用いて、語句・文レベルでの単語の発音の変化を解説しながら、発音の訓練をする。

(3) Debate の導入(5~7月)

1 日本語で討議

「ペットとして飼うにはイヌがよいかネコがよいか」

1.1 グループで、どちらがよいか話し合わせる。

1.2 ディベートの手順

犬派の1つ目の理由 → 猫派からの反駁 → 犬派からの反駁...

→ 猫派の1つ目の理由 → 犬派からの反駁 → 猫派からの反駁...

(1つの理由について議論をした後、次に移り、同様に繰り返す。)

2 英語でのディベートの導入

"Country Life or Urban Life?"

2.1 それぞれの利点、欠点を、英語で出させ、正しい文に直して板書していく。ただし、生徒の文法的な間違いなどには言及しないようにして、活発に意見を出せる雰囲気を作る。

2.2 板書した意見の中で、理論の表裏となっているものを結びつけて解説し、論理的思考を養う。また、補足的に他の意見を紹介する。

3.3 トピックうち、どちらかの立場を選ばせ、エッセイを書かせる。その際パラグラフライティングの指導をする。

(4) 英語でのディベート(9月~2月)

Impact TOPICS (Longman Richard R. Day, Junko Yamanaka)を使用する。

・指導手順

1. 教科書で語いや表現、意見を学習し、それらを使った意見交換をさせる。
2. トピックを提示して自分の意見を書かせる。
3. ペアで意見を交換させ、自分の意見を補強させる。
4. 2人対2人のグループディベートに取り組ませる。
5. その後、意見を挙手で発表させ、板書する。その際、英文の間違いは直して、書く。

Topic 1 The Guy with Green Hair — 高校の制服について

Topic 2 Earning Money — 仕事と趣味(ライフスタイル)

Topic 3 Please let me smoke — 喫煙と禁煙

Topic 4 I can't stop (Addiction) — のめり込むと危険なもの

Topic 5 Who pays? — デートではどちらがお金を出すべきか

資料1 Topic 1 の課題

1-5 PC Weekend Assignment

Topic: Maibara High school should abolish school uniform

Please write more than 2 sentences for each point. The beginnings of the 1st sentences are written below. Please finish the sentences with your own ideas. In the 2nd sentences, you have to explain each point. You can write an example, statistics, or a fact, and so on to prove your argument or statement.

Topic: Cats are better than dogs as pets.

Positive side: The 1st point is that keeping cats is easier than keeping dogs. If you keep a dog, you have to walk it almost everyday, but if you keep a cat, you don't have to be worried about it.

Positive side – The 1st point is that... The 2nd point is that... The 3rd point is that...

Negative side– The 1st point is that... The 2nd point is that... The 3rd point is that...

資料2 手順2(Topic 2)

1-5 PC Chapter 2 Earning Money

Here are two stories of the ways of life. Read them and answer the following questions in English. If you find the words that you don't know, please look them up in your dictionary and make "New Word-List" in your notebook.

Isogashio: I work for a newspaper company. As you can guess, work here is quite hard. I work almost 12 hours a day and very often on weekends, too. When something serious happens, I go there, no matter when it is. I often bring my work home. My salary is 500,000 yen, and I believe it is an important job. I find it very enjoyable, so I don't complain, but I sometimes feel like having a totally different lifestyle: enjoying myself with my hobbies and with my family. You know, my hobbies are playing the guitar and mountaineering. I enjoyed them a lot when I was in college, but now I have little time to practice the guitar and no time at all for mountain climbing. But I can save these activities for my retired years, when I have a lot of money to spend for my family and for myself.

Himanosuke: I work as a public office worker. I admit that I am not a capable public servant and I have already given up being promoted to a higher position. My work is easy. I clean the office, open the envelopes and give them to each department, and writing two or three official letters each day. I get 200,000 yen a month. Nobody seems to expect much of me, and I don't think it so bad. I come home exactly at 5.30. After dinner with my family I have plenty of time to play with my children and to enjoy painting pictures. Believe it or not, I am something of a painter. On Sundays I always go out to paint. It is so nice to have this hobby. Of course I have no intention to be a professional painter or to sell my paintings, but I can say I'm living to paint. I hope I will be able to live this way until I die.

Q1 What are the good things about Isogashio's life?

Q2 What are the bad things about Isogashio's life?

Q3 What are the good things about Himanosuke's life?

Q4 What are the good things about Himanosuke's life?

Q5 Which way of life do you think is better? And why?

2. 2年生(OCⅡ)におけるディベート指導

1) 目標

- ①特定のテーマに基づいて英語で情報を収集し、それに関して自分の意見を構築し、英語で意見発表を行うことを通じて、英語における情報収集力、表現力、発表の能力を総合的に高める。
- ②対話やディベートをする相手の意見をよく聞いて、即興的に自分の感想や質問、反論などを述べる能力をつける。
- ③既習の表現、語彙、文法事項を言語材料にして、「話す」・「書く」活動に積極的に生かしていく。
- ④議論の勝ち負けのディベートではなく、コミュニケーション・スキルとしてのディベートを身につける。ま

た自分の意見と関係なく肯定側または否定側に立つことにより、物事を多角的に捉え、論理的な表現力を養う。

2) 指導方法

教科書 *BirdLand*(文英堂)を用いて英語による意見構築、質の高い語彙や表現を用いた発信型の英語表現能力を学び、それらを実践的に活用している。また、教科書のトピックだけでなく身近なテーマやユニークな論題を用いてのプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを効果的に授業に導入している。前期(4月～10月上旬)は、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に活動し、後期(10月上旬～3月)から、教育的な主眼から、ディベートを本格的に取り入れ、相手の話を聴いて反駁したり、自分の意見とは関係なく肯定側また否定側に立つことにより、客観的なものの見方を養い、より論理的な思考や表現方法を学び、3年生の OCII への足がかりにする。

ディベート指導の流れ

(1)10月から11月

Activity 1ーディベート入門として、高校生によるディベート甲子園における競技ディベートビデオを、ディベートの形式や概要を掴むために鑑賞させた。

- ・()付きのフローチャートを作成し、生徒に鑑賞しながら書き込ませた。
- ・本校指導教員、平安女学院大学の中邑光男教授にディベートの楽しみ方について生徒に話していただいた。(下記参考)

(指導教員からの提案)

競技ディベートはその性質上勝ち負けを争う面が強いため、勝ち負けにあまり重点をおかず、その過程で論理的思考や表現方法、またユーモアなどを身につけながらコミュニケーション・スキルを学ぶという視点を大切にすることを本校指導教員である平安女学院大学中邑光男教授にアドバイスいただいた。また中邑教授は次の3点を提案された。

- ①論題は英語との関わり合いを考えて、英語でしやすいものを選ぶ。
- ②英語で話したいことと実際に話せることとのギャップより生まれるフラストレーションにより進歩が生まれるので、生徒に負荷をかけるべきだ。
- ③定番表現を教材化し、ディベート練習で積極的に使うように指導する。

Activity 2ー“I don’t think so, because……”ゲーム

- ・4人ずつのグループに分かれ、簡単な論題を与える。

例)Doing a sport is is good for your health.

Appearance is important.

- ・話す順番を決め、最初の生徒が論題を書くまたは言う。
- ・次のものは必ず、“I don’t think so,”または“I disagree.”で始め、続けて理由を付け加える。

例) A: I think doing a sport is good for your health.

B: I don’t think so, because some sports such as boxing or car racing is dangerous.

C: I disagree with you because it is true that doing some sport is good.

My grandmother says she is healthy because she plays ground golf.

D: I don’t think so. Doing too much exercise is not good for your health, but we don’t know how much we should do or shouldn’t.

Activity 3 – 論題“All English teachers at Maibara SHS should be English native speakers”を用いた反駁練習

- ・定番表現のインプット
- ・4人グループで活動
- ・まず、各自メリットとデメリットを3つずつ考える。
- ・グループとしてのメリットとデメリットを相談して決める。
- ・グループを2つに分けてペアを作り、2対2の反駁練習をする。
- ・対戦相手を代えて反駁練習(10分)を繰り返す。

Activity 4 – テーマ“Rebuttals VS. Counter-Arguments – What is the difference?”とし、リバトルとカウンター・アーギュメントの違いについて学び、正しい反駁の練習を実施した。

2つの定義は次のように設定した

Rebuttal = To give evidence against your opponent’s idea or supporting data.

Counter-argument = To give a different idea against your opponent’s idea.

- ・いくつかのトピックを与え、反駁の練習を書面にて実施する。

例) – I believe that Japanese students should stop wearing uniforms to school, because 75% of American students don’t like school uniforms.

– Tokyo is a better city than Osaka, because it is bigger and has Disneyland.

- ・添削によるフィードバックと反駁における良い例と悪い例を教材化し、説明を加える。

(2)1月から2月

ディベート(米原高校形式 18分)の実施

Maibara SHS Debate Format	
Affirmative Opening Statement	3 Minutes
Negative Opening Statement	3 Minutes
	(1 minute break)
Negative Rebuttal	3 Minutes
Affirmative Rebuttal	3 Minutes
	(1 minute break)
Affirmative Closing Statement	2 Minutes
<u>Negative Closing Statement</u>	<u>2 Minutes</u>
total	18 Minutes

(補足説明)限られた時間の中でより多くの生徒にディベートの機会を与えるため、このフォーマットを作成した。

Activity 1－論題”In Japan, people have happier lives after marriage.”

- ・4人グループで活動する(ディベート大会も同じメンバー)。
- ・上記フォーマットを考慮し、ディベートの立論を考える。
- ・立論を指示するデータをインターネットを利用して探す。
- ・肯定側、否定側どちらになってもよいように準備する。
- ・発言は4人がバランスよく分担し、ディベート時も助け合う。
- ・実際にフォーマットに従って、ディベート練習を実施する。

(3)2月下旬

ディベートのリスニングおよびライティング・テストの実施

- ・リスニング(20点)
 - ALT によるペア・ディベートをビデオ鑑賞し、質問に答える問題
- ・ライティング(20点)
 - 4つのトピックに対してリバトルをする問題
- ・ディベートに関するライティング(10点)
 - ディベートに関する一般的な問題から定番表現に関する問題

3. 3年生(OCC)におけるディベート指導

1) 目標

社会的な課題について情報収集し、それらを統合して自らの意見を構築し発表する力を養う。また、他人意見に対しても即座に同意したり反論したりする力を養う。

2) 指導方法

DEBATING THE ISSUES – Opposing Views on Value Topics(Machmillan Languagehouse)を主に使用した。授業は全てALTとのT.Tで英語で行う。1つのトピックについて2～3時間で取り扱う。

- (1) 予習として、テキストにある英文や資料を読ませて問題に答えさせておく。必要な場合には英字新聞や英文エッセイなどでインプット材料を補強する。
- (2) 授業でテキストの問題の解答を確認しながら、語いの確認、トピックに対する賛成・反対の意見の解説などを行う。教科書に紹介されている意見を参考にしながら、ペア・ディベートをさせる。
- (3) ペア・ディベートを受けて、意見を発表させる。表現上の誤りは授業者がその場で修正して復唱し、全体に提供する。
- (4) 生徒の出した意見に、他の生徒からの反駁を受け付ける。次にその反駁に対する反駁を受付ける。適宜、きちんと反駁出来ているかどうかのコメントや解説、助言をし、議論の展開方法を示す。これをいくつかの意見について繰り返す。
- (5) ジャッジ付きのディベートをさせる。事前に情報収集をさせたり、自分の意見をまとめてこさせる。3人のグループで賛成・反対・ジャッジの役割を決め、10分間のディベートをさせる。全員がこの3つの役割全てを網羅するように3回行う。ジャッジはどちらが優勢であったかを判定する。場合によってはクラスを3つの役割に分けてディベートをさせることもある。
- (6) トピックに賛成の立場と反対の立場の両方でエッセイを書かせる。

3) 利用したディベートのトピック

- (1) Should English be excluded as an entrance exam subject.

アメリカと日本の高等学校教育、入試制度の違いをALTに書いてもらい、それをもとに相互のメリット・デメリットを出させてディベートさせる。

- (2) Why do you go to college?

大学教育制や入試制度をどのように変えるべきかディベートさせる。

- (3) Who rebuilt Iraq?

「イラクの復興は誰がすべきか」についての英文の英語要約を宿題にして、ALTが添削する。生徒をアメリカ、国連、イラク国民などの立場に立たせてディベートさせる。

- (4) SARS – All travel from countries with SARS should be banned.

SARS についての新聞記事を元に上記のトピックでディベートさせる。

- (5) Should Japan make English the second official language?

「日本における英語第二公用語論」についての英文を読ませ、ディベートさせる。

- (6) Should we have mandatory voting?

Voter turnout について、各自調べさせておき、気付いたことを発表させる。その後、ペアディベートさせる。

(7) North Korea

核開発をやめさせる方法についてペアディベート。

(8) Women's late marriage and declining birthrate

トピックに関する新聞記事(日本語)を読ませ、その原因を考えさせておき、全体で意見を出させる。また、Women should stay home after they have a baby until the (youngest)child becomes six years old. のトピックでディベートさせる。

(9) A traditional or trendy lifestyle?

テキストを使用。茶髪やピアス着用などの是非についてディベート

(10) International Relationship

"What qualities are important as a husband?"でグループディスカッションをさせる。

(11) Corporal Punishment

テキストを使用。しつけと体罰、虐待についてディスカッションさせる。

(12) Abortion—Right to Live or Right to Choose

テキストを使用。

(13) Euthanasia—Right to Die or Duty to Live

テキストを使用。

(14) Life imprisonment or Death Penalty?

テキストを使用。We should abolish death penalty. のトピックでペア・ディベートさせた後、グループディベートさせる。

(15) Jury System

テキストを使用。ALTの作った裁判の事例を元にした英文について、自分が陪審委員となった場合、その刑についてどう思うかを議論させる。

(16) Organ Transplantation

人と人との臓器移植だけでなく、動物を使った臓器移植や、そのために動物が飼育されることなどについてのディベート。また、臓器提供に関わってドナー登録についても議論する。

(17) Surrogate Mothers

"mother"の定義を確認し、代理母制度について解説する。代理母制度についての是非を、実際の新聞記事を使い、ディスカッションさせる。

4) 指導の際の留意点

- ・英字新聞の記事やエッセイ、時には ALT 作、自作の英文でインプットの量を増やした。
- ・インプットの際、正確な表現を身につけさせるため、必要があれば語いの発音練習や日本語に

よる丁寧な解説も行った。語句の難易度にかかわらず、ディベートやディスカッションで必要になると 思われるものについて取り上げた。

- 1つのトピックに関して多面的な捉え方、考え方を紹介し、どちらの側の意見も言えるように指導した。
- ペア・ディベートの際、授業者は期間巡視するが、できるだけ生徒の使う英語を聞き、修正を加えたり、補足したりして、ディベートが深まるように補助した。
- 自分の意見を準備して行うディベートと、その場で考えて発表しなければならないものの両方を適宜取り入れた。特に、相手に反駁する際には、即興でさせることが多かった。
- 定期考査では、トピックに関する Knowledge Questions 以外に、ある意見に対して賛成の意見を書かせたり反対の意見を書かせたり、エッセイを書かせる問題も出題した。

(例) Knowledge Questions

[1] Answer the following questions about things we have studied. (2 points each)

1. Name two countries that have a lot of SARS patients.
2. What is one country that has English as a second official language?
3. What do American universities use to choose who will enter the university?
(write two things).
5. About what percentage of Japanese people in Shiga voted in the last local elections?
a. 10-20% b. 30-40% c. 50-70% d. 80-100%
6. What is the "lingua franca"? Explain in English?

(例) Writing Section

[1] Write one reason for each topic. All your reasons should be affirmative. Write more than two sentences for each reason. (5 points each.)

1. People who live in countries with SARS should be free to travel if they do not seem sick.
2. The Japanese school system is better than the American school system.
3. English should be the official language of Japan.

[2] Write three two advantages and two disadvantages of the jury system.(20)

5) 生徒の評価

- 定期考査で意見を書かせた場合はすべて、Accuracy, Logic, Challenge の3つの観点で評価し

た。(Accuracy: 英文の正確さ Logic: 説得力があるか、論理的であるか Challenge: 授業で学んだ語彙・表現を多少のミスはあっても積極的に使って表現しようとしているか。)

- ・ 授業中には、予習として課題文を読み、自分の意見を書いているかどうか、また、それらを他人に伝えようとしているかどうかを評価した。また、グループディベートでの発言の回数を評価した。
- ・ スピーキング能力については、年に2回行っているスピーキングテストで、試験官との即興ディベートや生徒のグループディベートで測った。

4. アカデミック・ディベートの指導法

1) アカデミック・ディベートの指導手順

- (1) スキーマの活性化 — テーマの提示、テーマ設定の理由を英語で説明
- (2) 情報の注入 — テキストを読ませ、テーマにかかるさまざまな考え方、データ、問題点などを理解させる。
- (3) テキストの言語材料の収集 — テキストからテーマについて論じるときに使える表現、語彙などの言語材料を習得させる。語彙等が不足の場合は、別途語彙集を与える。
- (4) ペアでディベートをさせる。

1. Affirmative の 1st reason を述べる。
2. Negative の反駁
3. Affirmative の再反駁
4. どちらかの反駁が尽きるまで 1st reason についてディベートする。
5. Negative の 1st reason を述べる。
6. 以下 2 からの手順に同じ。

社会的・国際的な問題についてのディベートでは、単に自分の意見を感想的に根拠なく述べるだけでは議論が続かない。そこで、生徒に調査をさせたり、こちらからデータを与えたりする。

たとえば、「リスニング試験を大学入試センターテストに導入すべきかどうか」という教育的なテーマに関して、次のようなデータを与えて、そこから読み取れることを話し合わせる。

英語力テスト比較(満点50 リーディングとリスニング)

	China	Japan	S. Korea	Singapore
1 st -year high schoolstudents	48. 9	42. 5	47. 1	
college freshmen	45. 7	41. 9	37. 6	51. 4
college seniors	40	32. 3	33. 9	49. 2

その上で、次のような観点で考えさせる。(中邑光男先生の指導による)

①現状の問題点は、現状を変更しなければならないほど深刻か？

例:(肯定側)日本人の英語力は大変低く、そのために、実際に被害が出ている。(その具体的証拠を示せるか?)→だから現状を変えなければならない。

例:(否定側)日本人が英語を実際に使用する機会が少ない。英語力が低くても大きな問題ではない。(その具体的証拠を示せるか?)→だから現状のままでよい。

また、日本人の英語力は徐々に上がってきているので問題はない。

②現状の問題点を生み出す原因は何か？

例:(肯定側)日本人の英語力が低い理由は読み書きに偏った英語教育にある。→だからセンター試験にリスニングを導入し、音声重視の英語教育に変えるべきである。

例:(否定側)日本人の英語力が低い理由は実生活で英語を使う機会の少なさにある。→

だからセンター試験にリスニングを導入しても、実質的な効果はない。

③このプランは問題の原因を解決するのか？(Plan の desirability)

例：(肯定側)リスニングテストをセンター試験で導入することにより、リスニング力の強化に全国の高
校や塾が取り組むことになる。従ってプランの望ましさは高い。

例：(否定側)リスニングテストをセンター試験で導入しても、話すことをしないため、英語が使えるよ
うにはならない。したがって、プランの望ましさは低い。

④このプランは英語のコミュニケーション能力を正しく測れるか？

例：(肯定側)人とのコミュニケーションは音声を通して行うことがほとんどであり、聞く力と話す力は
表裏一体である。実際に何が言われているかわからないため、英語でコミュニケーションが
スムーズに取れないことはよく経験するところである。従って聞く力を測定することは話す力
を測定することになる(証拠となる資料が示せるか？)

例：(否定側)リスニングの能力は話す力よりリーディングの力と関係がある。(その具体的証拠を示
せるか？)従って、聞く力を測ろうとするならリーディングの力を測るだけでよい。また、実際
のコミュニケーションは人と直接向かい合ってやるものであり、たとえ聞き取れなくても聞き
返したりやさしく言い換えてもらって理解できる。だから機械で流される音声を聞き取れたか
どうかで本当のコミュニケーション能力は測れない。

話す力は書く力とむしろ連動する。リスニングテストを導入するよりセンター試験にライティング
テストを導入すべきである。

⑤このプランはメリットを生むかデメリットを生むか？

例：(肯定側)OCの授業を軽視して文法ばかりを教えている学校が考え方を改め、コミ
ュニケーション重視の英語教育に切り替える。ALTの能力もより活用され、生徒がより真剣
にOCの授業に取り組み、ALTの話にも耳を傾けるようになる。コミュニケーションに必要な
英語は読んで覚えるより、イントネーションやリズムを覚えながら聞いて覚えるのである。だ
から、リスニング試験を導入することによって、高校生は一生懸命聞く練習をし、その結果受
験勉強をしながら話す力が伸びる。

例：(否定側)リスニング教材を使いこなすだけの力量が教師にない場合が多く、テーブ
教材の問題を解かせるだけで、リスニング指導が適切になされることは期待できない。教師
も生徒もリスニングに必要な以上に学習上の力点を置くために、文法やライティングなどを学
ぶ時間が減少する。

⑥このプランは公平性を生み出すか。

例：(肯定側)機械的・技術的な問題は、これから解決可能。だから、そのことを理由に
反対論を唱えるのは、雨が降るかもしれないから、遠足をやめよう前もって決めているよう
なもの。リスニングの教材は誰にでも手に入り、勉強しようとするれば誰でも平等にできる。

例：(否定側)ALT が配置されている学校とそうでない学校、OC に熱心な学校とそうでない学校で
有利不利が生じる。海外体験のある生徒や帰国子女に有利。

⑦肯定側のプランは実行可能か？(Plan の practicability)

例：(肯定側)音響の悪い教室があることを考えて、使い捨ての機械を使うことが決まっ
ており、実行可能である。

例：(否定側)使い捨ての機械がうまく機能するとは限らない。例えば、外を救急車が通
ったり、飛行機が飛んだりしたら、どうするのか。

このような観点は生徒自身の調査やデータ探しからだけでは到達することが難しい。そこで、以上
のような内容を英語で口頭で伝えたり(生徒はメモを取る)、日本語で与える(生徒はそれをもとに英
語で意見を書く)。さらに、このような観点を資料を探して、意見のサポートとする。

アカデミック・ディベートは、英語力だけにとどまらず、データを収集する能力、データ活用能力、論
理的な思考力などが必要である。さらに、複雑な概念を英語で表現するという高度な能力も必要であ
る。しかし、これを続けることによって、議論を根拠に基づいて行う力がつき、英語を書く際の論理展
開もうまくなった。このことは、英語に限らず、日本語による小論文でも、大いに与って力があつた。

なお、中邑光男先生から指導していただいたディベート表現の「型」と指導の例を、上記
のテーマに基づいて記す。このような本格的なディベートは、あまり行う機会がなかったが、
上記のような本校独自のディベートにおいても大いに参考にした。

ア) ディベートに使える英語表現の「型」

① 議論を起こす時

I would argue that a listening test should/should not be incorporated into the center test for these two reasons:

Reason No. 1:

Reason No. 2

For these reasons we have believe that listening should be part of the test the the center test.

② 議論を evidence で支持する時

I would like to [Let me] quote two pieces of evidence to support our argument.

According to Ms. Torikai, a professor of English education at Rikkyo University, who answered our questionair, QUOTE “～” UNQUOTE. As you can see, Professor Torikai emphasizes that incorporating listening tests in the Center Test causes a lot of trouble and supports our position. Let me quote another piece of evidence to further prove the validity of our argument. Here we have data showing the relationship between the speaking ability and listening ability of a certain group. This tells us that people who have high listening ability cannot necessarily speak fluently. So, even if we incorporate listening tests in the Center Test, these will not evaluate the examinees’ communicative ability.

③ 質問をして相手の議論を確認する時

Let me ask you two questions so that I can see your arguments [constructive speech] clearer.

Please answer these questions either with Yes or No.

Did you say that～?

④ 質問をして相手の議論の深みが足りないことを暴く時

(ただしこの種の質問は相手側に自由に時間を使って説明する機会を与えることになるので要注意。)

You mentioned that the incorporation of listening comprehension tests into the center test will put poor students at a disadvantage. Please briefly explain that point [Please give us an example.]

⑤ 相手側の意見に反論する時

The opponent team said that testing listening ability doesn’t mean evaluating communicative ability. We don’t agree with this opinion, because the teachers will put more emphasis on listening comprehension practice in class and try to incorporate speaking activities. ALTs will also try to do their best to improve our listening ability with a lot of speaking practice. So testing listening ability can also measure speaking ability because they improve together.

⑥ まとめを行う時

We have proved, by quoting two professors’ opinions, that listening IS what we need to improve our communication skills in English greatly. Indeed, listening comprehension tests alone cannot measure the examinees’ communicative ability, but this will surely be a great step toward a better direction. In many countries where listening comprehension tests are given in the entrance examinations, their communicative ability is high. Japan should start by incorporating the same kinds of test into the Center Test. Then it will be much easier for students to improve their speaking skills when they go up to universities. Thus we firmly

believe our argument is right.

イ)生徒に練習させる工夫の例

- ① formula expression memorization practice: 上記の表現を暗唱させる。プリントの左に日本語、右に英語を書き練習させる。
- ② evidence card reading practice: 引用しようとする evidence card を 5 つ決めさせ、それを音読させる。重要な単語に下線を引かせ、それを大きく読むように指導する。最後に、出来るだけ顔を上げ生徒の方を見ながら、evidence card を時間以内(例 15 秒ほど)で読む練習をさせる。
- ③ rebuttal practice: 相手からの反論として予想できるものを 5 つほど列挙し、それをカードに書く。それに対する反論を考えた後、カードをグループ内で回し、そのカードに書かれた議論に対して反論をする。時間を決めて、時間が来れば、強制的に次の人にそのカードを回す。
- ④ question practice: 議論の流れがどのようなものになっても、必ず相手に対して行う質問のストックを作らせる。一人 2 つくらいでいいが、それを英語にしカードに書かせる。カードを読む練習は evidence card と同じ。余裕があれば、相手の答えを予想して、follow up の質問を誰がするのかを決める。
- ⑤ chart explaining practice: 議論を理解するのに便利な表などを模造紙などに書かせ、それをプレゼンする練習をさせる。練習用のシナリオは全て京大式のカード程度にまとめさせ、だらだら行わせない。
- ⑥ constructive speech practice: 肯定側の立論はほとんど完成原稿を作成する。それをグループの誰でも暗記するくらい読み込ませる。否定側の立論の原稿も 7 割方は相手の議論に関係なく準備が出来るので、肯定側の立論のように準備をさせる。

2) 高度な英文を読ませた後、その情報を発信につなげさせるための指導法

手順1 教師自作の英文を読ませる

It has recently been pointed out that Japanese university students' academic abilities have decreased greatly. Many university mathematics teachers say that their students, even if they major in science, cannot solve easy math problems at junior high level. Teachers are also frustrated that their students cannot read fundamental academic books in Japanese, not to mention English books. In some universities they hire high school or cram school teachers to teach the students basic knowledge that they are supposed to have learned in junior high school.

Likewise, Japanese high school students' academic abilities have become lower. They don't study as much as students in the past. They have more holidays now, and they don't need to take all the subjects offered at high school. So, many students graduate from high school without studying much about mathematics, physics or world history.

In addition to fewer hours of studying, universities have become easier to enter because there are fewer children around the country. In order to get more applicants, universities include fewer subjects in their entrance exams. So, a student who wants to study English can enter an English-related university without taking an English exam.

Once students go to university, they don't need to study hard. They have part-time jobs, they

join a activities and don't study. Universities are called a great leisure land.

This problem is very serious. Japan is a country with few natural resources. The only way for this country to compete with other countries in the international market is to improve industry by raising superior citizens. For this purpose, education is the key. But under these circumstances, we should say there is no bright future for Japan.

To solve this serious situation, we should take some drastic measures.

1. We should abolish all the club activities so that high school students will concentrate on studying more.
2. Universities should make it more difficult for students to pass classes and graduate.

手順2 英文を次のような観点でまとめさせる。その際、本文にある英語を極力使うように指示する。これは、英文の論旨を整理し、英文中の意見と言語材料を取り込むために行う。

- 1) Examples to indicate the declining academic abilities of university students.
- 2) Reasons why high school students' academic abilities are getting lower.
- 3) Reasons why university students don't study so hard.

手順3 英文を読み、それをまとめたことによって取り入れた情報および言語材料を発信へとつなげるために、summary を見ないで口頭で上の質問に答えさせる。その際、教師と他の生徒は、必要な情報がすべて網羅されているか、本文中にある言語表現をいくつ使っているかをチェックする。

手順4 デイバートを行う。トピックに対する肯定側の立論は、手順3で発表した内容を根拠に構築させ、rebuttal でも You said ...と同じ内容を反復してから反論させるようにする。

手順5 デイバートの後、自分の意見を論文に書かせ、英語の完成度を評価する。

成果: デイバートは本校英語授業の中核を成すものであるが、そこへ至らせる過程には、様々な意見の理解と言語材料の習得が必須となる。その意味で、この方法は大変効果的で、デイバートがやりやすくなるというメリットが大きい。書かせた論文でも、ほとんどの生徒がテキスト本文の情報や英語表現をうまく使って自分の意見を表現できる。